

加藤節教授年譜及び著作目録

年 譜

- | | | |
|-------|-------|---|
| 一九四四年 | 五月二四日 | 長野県生まれ |
| 一九六〇年 | 四月 | 長野県立松本深志高校入学 |
| 一九六三年 | 三月 | 同校卒業 |
| 一九六五年 | 四月 | 東京大学文科一類入学 |
| 一九六九年 | 六月 | 同校法学部卒業 |
| 一九七一年 | 七月 | 東京大学大学院法学政治学研究科修士課程（福田歓一教授に師事） |
| | 三月 | 東京大学法学修士号取得 |
| 一九七二年 | 四月 | 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程入学 |
| 一九七四年 | 九月 | 『南原繁著作集』（丸山眞男・福田歓一編、岩波書店）編集助手（一九七三年七月まで） |
| 一九七五年 | 四月 | 成蹊大学法学部講師（一九七五年三月まで） |
| 一九七六年 | 四月 | 成蹊大学法学部助教（一九八二年三月まで） |
| 一九七九年 | 九月 | 東京大学法学博士号取得 |
| 一九八二年 | 四月 | ケンブリッジ大学クレア・ホール・コレッジ客員研究員（一九八一年八月まで）
成蹊大学法学部教授 |

- 一九八三年 四月 成蹊大学法学部政治学科主任（一九八七年三月まで）
 日本大学経済学部非常勤講師（一九八五年三月まで）
- 一九八六年 四月 東京都立大学大学院非常勤講師（一九八七年三月まで）
 成蹊大学大学院評議員（一九九二年三月まで）
- 一九八八年 四月 成蹊大学アジア太平洋研究センター所長（一九九三年月まで）
 ケンブリッジ大学ペンブルック・コレッジ客員研究員（同年九月まで）
- 一九九〇年 七月 成蹊大学アジアカンブリッジ大学ペンブルック・コレッジ客員研究員（同年九月まで）
 東京都立大学大学院非常勤講師（一九九三年三月まで）
 成蹊大学国際交流センター所長（一九九六年三月まで）
 ケンブリッジ大学ペンブルック・コレッジ客員研究員（同年九月まで）
- 一九九二年 四月 北京大學国際関係学院客員講師（夏期集中講義）
 成蹊大学国際関係学院客員講師（夏期集中講義）
- 一九九三年 七月 北京大學国際関係学院客員講師（夏期集中講義）
 成蹊大学法学部長・成蹊学園理事（二〇〇〇年三月まで）
- 一九九四年 九月 北京大學国際関係学院客員講師（夏期集中講義）
 成蹊学園将来構想委員会委員長（二〇〇六年三月まで）
- 一九九六年 四月 成蹊学園将来構想委員会委員長（二〇〇六年三月まで）
 日本政治思想学会理事（二〇〇二年五月まで）
- 一九九七年 九月 日本政治思想学会理事（企画委員長、年報委員長等歴任）（二〇〇八年一〇月まで）
 成蹊学園専務理事（二〇〇六年三月まで）
- 一九九八年 四月 日本政治思想学会代表理事（二〇〇四年五月まで）
 北京大學国際関係学院客員講師
- 二〇〇〇年 四月 九州大学大学院講師（夏期集中講義、同年七月まで）
 日本学術会議会員（二〇一一年一〇月まで）
- 二〇〇二年 五月 九州大学大学院講師（夏期集中講義、同年七月まで）
 日本学術会議会員（二〇一一年一〇月まで）
- 二〇〇四年 五月 九州大学大学院講師（夏期集中講義、同年七月まで）
 日本学術会議会員（二〇一一年一〇月まで）
- 二〇〇五年 四月 九州大学大学院講師（夏期集中講義、同年七月まで）
 日本学術会議会員（二〇一一年一〇月まで）
- 一〇月 九州大学大学院講師（夏期集中講義、同年七月まで）
 日本学術会議会員（二〇一一年一〇月まで）

業績目録

〔著書〕

- 『近代政治哲学と宗教―一七世紀社会契約説における「宗教批判」の展開』（一九七九年、東京大学出版会）
- 『ジョン・ロックの思想世界―神と人間との間』（一九八七年、東京大学出版会）
- 『政治と人間』（一九九三年、岩波書店）
- 『南原 繁―近代日本と知識人―』（一九九七年、岩波書店）
- 『政治と知識人―同時代史的考察―』（一九九九年、岩波書店）
- 『政治与人』（二〇〇三年、北京大学出版局）

- | | | |
|-------|-----|-------------------------|
| 二〇〇七年 | 一月 | 南原繁研究会代表 |
| 二〇〇九年 | 四月 | 成蹊学園専務理事（二〇一二年三月まで） |
| 二〇一〇年 | 九月 | 成蹊学園将来構想委員会委員長（二〇一二年三月） |
| 二〇一一年 | 一〇月 | 第七回新渡戸・南原賞受賞 |
| 二〇一三年 | 三月 | 日本学術会議連携会員 |
| | 四月 | 成蹊大学退職 |
| | | 成蹊大学名誉教授 |

『政治学を問いなおす』（二〇〇四年、筑摩書房）

『同時代史考―政治思想講義』（二〇一二年、未來社）

『ロック』（近刊、岩波書店）

〔共著・編書〕

有賀弘、佐々木毅編『民主主義思想の源流』（pp.81-108）「ロック政治哲学の神学的基礎―『神の作品』の政治学―」（一九八六年、東京大学出版会）

佐々木毅、他編『岩波講座 社会科学の方法Ⅰ ゆらぎのなかの社会科学』（pp.59-83）「国民国家のゆらぎと政治学」（一九九三年、岩波書店）

加藤節編『デモクラシーの未来 アジアとヨーロッパ』（pp.1-16）「序章 デモクラシー…過去と未来との間」（一九九三年、東京大学出版会）

加藤節、宮島喬編『難民』（pp.1-20）「I章 国民国家と難民問題」（一九九四年、東京大学出版会）

工藤喜作、桜井直文、他編『スピノザと政治的なもの』（pp.9-71）「スピノザにおける哲学と政治―対立から和解へ―」（一九九五年、平凡社）

橋本淳、他編『キリスト教と欧米文化』（pp.37-48）「ジョン・ロック再考」（一九九七年、ヨルダン社）

岩波書店編集部編『教育をどうする』『間違えよう自由』を許す教育』（一九九七年、岩波書店）

佐々木毅、加藤節編『福田歓一著作集』（一九九八年、岩波書店）

入江昭、加藤節、柳井道夫著『国際社会と人間教育―個性をもった自立的な人間の創造』（二〇〇一年、ブレイン出版）

鷺見誠一編『転換期の政治思想 20世紀からの問い』（pp.65-86）「近代日本と批判主義政治学―南原繁・丸山眞男・福田歓一を中心として―」（二〇〇二年、創文社）

南原繁研究会編『南原繁と現代—今問われているもの—』(pp.19-28)「南原政治哲学からの問へ」(二〇〇五年、To be出版)
 田中浩編『思想学の現在と未来 現代世界—その思想と歴史①』(pp.137-156)「コギト・リヴァイアサン・弁神論—一七世紀思想史序説—」(二〇〇九年、未來社)

福田欽一著・加藤節編『デモクラシーと国民国家』(pp.iii-iv, pp.321-333)「編者はしがき」「編者あとがき」(二〇〇九年、岩波書店)

南原繁研究会編『南原繁 ナシヨナリズムとデモクラシー』(pp.15-35)「南原繁の戦後体制構想—ナシヨナリズムとデモクラシーとをめぐって—」(二〇一〇年、EDITEX)

加藤節編『デモクラシーとナシヨナリズム—アジアと欧米』(pp.7-29)「試練に立つデモクラシー—冷戦後の世界—」(二〇一一年、未來社)

吉野源三郎著『人間を信じる』(pp.317-333 解説)「思想家吉野源三郎」(二〇一一年、岩波書店)

「書評 敬愛に満ちた南原繁評伝 山口周三著『南原繁の生涯』」(二〇一三年、『本のひろば』二月号、キリスト教文書センター)

〔訳書〕

J・ダン著『ジョン・ロッカー—信仰・哲学・政治』(一九八七年、岩波書店)

Q・スキナー著『思想史とは何か—意味とコンテクスト』(一九九〇年、半澤孝磨と共編訳、岩波書店)

E・ゲルナー著『民族とナシヨナリズム』(二〇〇〇年、監訳、亀嶋庸一、西崎文子他と共訳、岩波書店)

J・ロック著『統治二論』(二〇〇七年、岩波書店)

J・ロック著『完訳 統治二論(文庫版)』(二〇一〇年、岩波書店)

【論説】

「スピノザ哲学における政治理論の位置」(一九七一年、『思想』二月号、岩波書店)

「近代社会契約説と宗教理論」(一九七六年、『成蹊法学』第一〇号、成蹊大学法学会)

「スピノザ政治哲学とキリスト教の問題—斉藤博『スピノチスムスの研究』に寄せて—」(一九七九年、『成蹊法学』第一四号、成蹊大学法学会)

成蹊大学法学会)

「ロックにおける『思考する実存』の形成—神と人間との間—」(一九八一年、『思想』二月号、岩波書店)

「ジョン・ロック再考—一つの悲劇—」(一九八一年、『創文』二二五号、創文社)

"On the 'Complexity' of Locke's Thought: A Methodological Sketch" (1981, *History of Political Thought*, Vol. 2, No. 2, 1981 Exeter.)

"On the Characteristics of Locke's Understanding of Christianity—A Reconstruction—" (1981, *Locke Newsletter*, ed. R. Hall, No. 12, 1981)

「ロック寛容論における個体化の原理」(一九八三年、『社会思想史研究』第七号、社会思想史学会)

項目 「政治哲学」「市民社会論」「イギリス経験論」「トマス・ホブズ」「リヴァイアサン」「ジョン・ロック」「統治一論」

「デービット・ヒューム」「人間本性論」(一九八五年、『平凡社大百科事典』、平凡社)

「生と知—ロック哲学に関する一つのエッセイ—」(一九八八年、『思想』八月号、岩波書店)

"Theological Foundation of Locke's Political Thought—Politics of Divine Workmanship—" (一九八八年、『成蹊法学』第

二七号、成蹊大学法学会)

「人間と政治—ジョン・ロックからの視点—」(一九八九年、『世界』四月号、岩波書店)

「南原政治哲学における『学的世界観』の構造—『価値並行論』を中心とする予備的考察—」(一九八九年、『思想』八月号、

岩波書店)

「スピノザ解釈の一パラダイム―倫理学と政治学との間―」(一九八九年、『成蹊法学』第二九号、成蹊大学法学会)

『政治』と『自由』(一九九一年、『思想』五月号、岩波書店)

「日本社会における『外国人問題』」(一九九一年、『UP』五月号、東京大学出版会)

「政治の究極にあるもの」(一九九一年、『思想』一〇月号、岩波書店)

「難民問題の歴史的文脈」(一九九一年、『世界』一〇月号、岩波書店)

“JOHN LOCKE ON CHRISTIANITY—A Reconstruction—”(一九九一年、『成蹊法学』第三三号、成蹊大学法学会)

「人間と国家―同時代史のための試論―」(一九九二年、『世界』三月号、岩波書店)

「政治と死―二十世紀へのレクイエム―」(一九九二年、『思想』八月号、岩波書店)

「ホッブスの問い―『死』の政治学―」(一九九三年、『創文』三四〇号、創文社)

『政治倫理』をめぐる風景」(一九九三年、『世界』一月号、岩波書店)

「日本のアジア観―回顧と展望―」(一九九三年、『成蹊法学』第三六号、成蹊大学法学会)

「政治学への挑戦―民族紛争からの問い―」(一九九四年、『思想』五月号、岩波書店)

「政治思想史研究の意味―学問のナショナルイデオロギ―」(一九九四年、『UP』二六三号、九月号、東京大学出版会)

「国民国家をめぐる諸問題―アジアにおける民族・国家・国家関係を考察するために―」(一九九四年、『成蹊法学』第三九号、

成蹊大学法学会)

「戦後五十年と知識人」(一九九五年、『世界』一月号、岩波書店)

「民族と国家―政治学への問い―」(一九九六年、『思想』五月号、岩波書店)

「思想としての二〇世紀―文明と野蛮―」(一九九七年、『世界』五月号、岩波書店)

『『市民社会論』再考』(一九九七年、『成蹊法学』第四五号、成蹊大学法学会)

- 「現状変革への政治哲学」(一九九七年、『ロゴスドン』第二号、ヌース出版)
- 「南原繁と現代―私的な回想―」(一九九七年、『国際文化会館紀要』)
- 『福田歓一著作集第二卷「近代政治原理成立史序説」』解説(一九九八年、『福田歓一著作集第二卷』、岩波書店)
- 項目「民主主義」「社会契約説」「南原繁」(一九九八年、『岩波哲学・思想辞典』、岩波書店)
- 「南原繁と丸山真男―交錯と分岐―」(一九九八年、『思想』七月号、岩波書店)
- 「思想としての沖繩―デモクラシーとミリタリズムとの間―」(一九九八年、『世界』一〇月号、岩波書店)
- 「内戦」―反復する歴史からの問い―(一九九八年、『思想』一二月号、岩波書店)
- 「自由」と「自由論」との間―政治学の視点から―(一九九八年、『神奈川大学評論』一二月号、神奈川大学)
- 「岐路に立つ戦後―現代日本の政治状況―」(一九九九年、『世界』緊急増刊「ストップ!自自公暴走」、岩波書店)
- 「二一世紀への課題―政治学からの視点」(二〇〇一年、『思想』一月号、岩波書店)
- 「内戦をめぐる政治学的考察 はじめに」(二〇〇一年、『二〇〇〇年度 年報政治学』、日本政治学会)
- 「書評 歴史・理論・実践のトリアーデ―石田雄『記憶と忘却の政治学』を読む―」(二〇〇一年、『成蹊法学』五一号、成蹊大学法学会)
- 「一七世紀思想史のための覚書」(二〇〇三年、『成蹊法学』五七号、成蹊大学法学会)
- 「国民・群衆・暴徒」(二〇〇三年、『思想』六月号、岩波書店)
- 連載「同時代史考―政治思想からの問い―」(二〇〇四年、『世界』一月号〜二月号、岩波書店)
- 「9条のリアリズム、改憲派の一国主義―平和主義とナショナリズムを再考する―」(二〇〇四年、『論座』六月号、朝日新聞出版社)
- 「書評 坂本義和著『国際政治と保守思想』」(二〇〇五年、『論座』三月号、朝日新聞出版社)
- 「書評 斬新なアレント像 森分大輔『ハンナ・アレント研究―「始まり」と社会契約』によせて」(二〇〇七年、『風のたよ

り、風行社)

「ゴット・リヴァイアサン・弁論論——一七世紀思想史序説——」(二〇〇八年、『未来』三月号、未来社)

「政治思想の研究は政治学に対してどのような貢献ができるか」(二〇一〇年、『UP』三月号、東京大学出版会)

「書評 共鳴しあう鎮魂・祈り・批判——李静和編『残傷の音——アジア・政治・アート』の未来へ」(二〇一〇年、『成蹊法学』七二二号、成蹊大学法学会)

「引き継ぎ、生かすべき『戦後精神』とは何か」(『これからどうする』、二〇一三年六月、岩波書店)

「書評 『戦後』思想への根源的な問い 久野収・鶴見俊輔・藤田省三著『戦後日本の思想』」(二〇一三年七月、『平和を考えるための百冊』、日本平和学会)

【その他】

「学術用語としての『宗教批判』」(一九七七年、『朝日新聞』六月二三日付、朝日新聞社)

「大学教育の諸問題」(一九七八年、『成蹊法学』第一三号、成蹊大学法学会)

「反省期のジョン・ロック研究」(一九八三年、『朝日新聞』一月二四日付、朝日新聞社)

「『言論の自由』への挑戦を憂う——民主主義の基礎問われるテロ行為——」(一九九〇年、『朝日新聞』五月九日付、朝日新聞社)

「ジョン・ロック研究の現在——国際コンファレンスからの報告——」(一九九〇年、『朝日新聞』一月一三日付、朝日新聞社)

「『未完の近代』を生きたる創造力 対談 柄谷行人」(一九九五年、『世界』七月号、岩波書店)

「戦後五十年と憲法状況」(一九九五年、五月二日付各紙夕刊、共同通信配信)

「国を開くということ」(一九九六年、『朝日新聞』五月一五日付、朝日新聞社)

「人間の主体性を求めて」(一九九六年、『アエラ・ムック 政治学がわかる』、朝日新聞社)

「私の三冊」(一九九六年、『図書』臨時増刊、岩波書店)

- 「新ガイドラインと戦後の岐路」(一九九九年、『朝日新聞』三月一八日付、朝日新聞社)
- 「ガイドライン法案 日本の岐路」(一九九九年、『しんぶん赤旗 日曜版』四月一八日付、日本共産党)
- 「師と弟子との間―南原繁と福田歓一―」(二〇〇二年、『文藝春秋』臨時増刊号「日本人の肖像」、文藝春秋社)
- 「憲法9条 存亡の危機」(二〇〇四年、『北海道新聞』二月一八日付、北海道新聞社)
- 「南原繁没後三〇年―戦後出発点の構想の重み―」(二〇〇四年、『朝日新聞』六月一六日、朝日新聞社)
- 「政治学者・福田歓一氏を悼む―現実と対峙した「人間の哲学」―」(二〇〇七年、『毎日新聞』一月二六日付、毎日新聞社)
- 「師・福田歓一を送る」(二〇〇七年、『世界』四月号、岩波書店)
- 「統治二論」(二〇〇七年、成蹊大学図書館発行文書)
- 「ジョン・ロックとの旅―『統治二論』を訳し終えて―」(二〇〇七年、『図書』十一月号、岩波書店)
- 「ヨーロッパ政治思想史との旅」(二〇〇九年、「政治思想学会会報」No.28、政治思想学会)